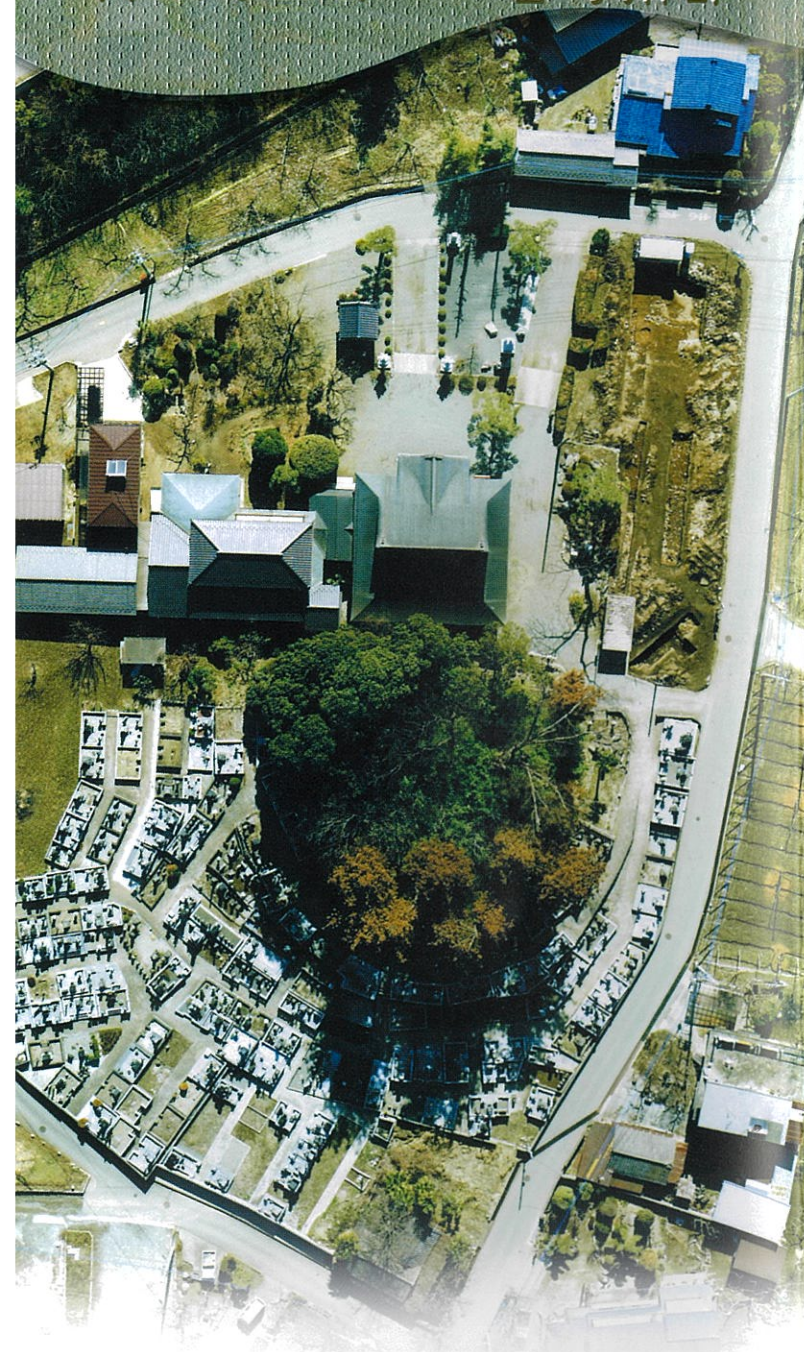


姥塚古墳と その周辺

御坂町西部 一宮町南部



散策コース

コースA (姥塚と古墳)

石和温泉駅～(タクシー15分)～金川の森・四ツ塚古墳群～(徒歩15分)～錦生古墳群(2基)～(徒歩10分)～姥塚～(徒歩10分)～国衙推定地～(徒歩15分)～県立博物館～(徒歩15分)～市営温泉みさかの湯～(バスまたはタクシー10分)～石和温泉駅

コースB (国衙と官人の祈り)

石和温泉駅～(タクシー10分)～九品寺～(徒歩10分)～正法寺～(徒歩10分)～国衙推定地～(徒歩10分)～熊野神社～(徒歩5分)～姥塚～(徒歩10分)～美和神社～(徒歩25分)～県立博物館～(徒歩15分)～市営温泉みさかの湯～(タクシー15分)～石和温泉駅

コースC (姥塚を支えた集落遺跡)

石和温泉駅～(タクシー10分)～半行寺遺跡～(徒歩10分)～国衙推定地～(徒歩10分)～姥塚～(徒歩5分)～二之宮遺跡(現中央自動車道)～(徒歩25分)～亀甲塚～(徒歩5分)～境沢遺跡(現市営温泉みさかの湯)～(タクシー15分)～石和温泉駅



日帰り温泉施設：紅薔薇温泉みさかの湯

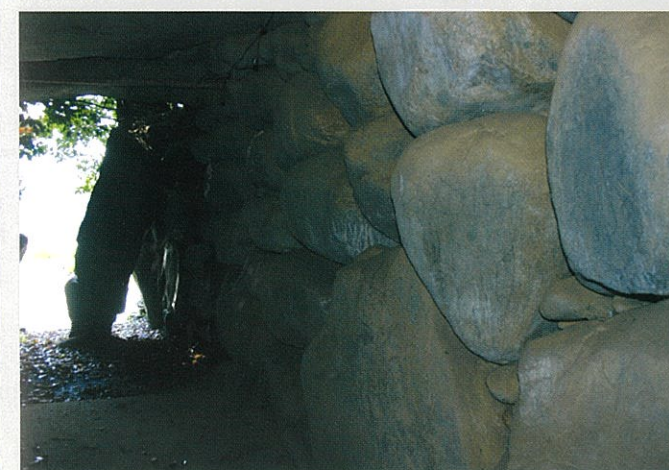


山梨県立博物館

山梨県笛吹市教育委員会文化財課

〒406-0031 笛吹市石和町市部809-1 TEL 055-261-3342(直)

～このマップは文化庁の補助金を受けて作成しています～

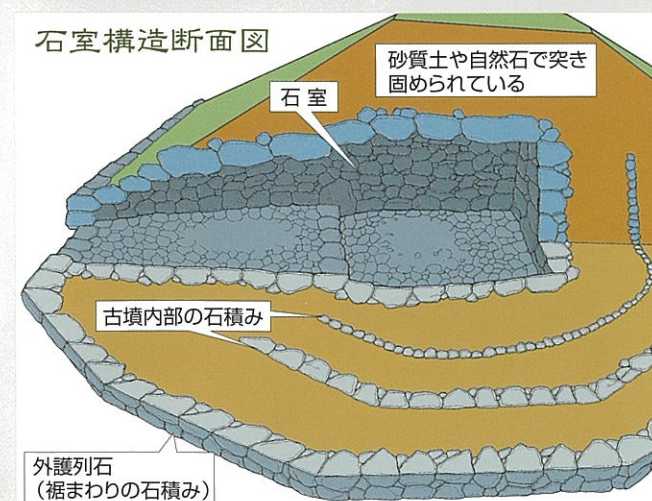


姥塚

ウバツカ

6世紀後半に造られた東日本最大の横穴式石室を持つ古墳。石室の入り口部分が削られています。石室全長は17m以上、古墳のマウンド直径は約40mを測り、周囲を幅10mの周溝が巡ります。石室に使われている石材は、隅の丸い自然石で、石材を横口で積んでいます。石積み裏側は、裏込め石という拳大の石が積み込まれています。巨大な天井石を載せることで、構造全体が安定し、1400年もの年月に耐えて現在に至っています。

石室構造断面図



① 美和神社

ミワジンジャ

甲斐の二之宮の社格を持つ神社で、武田家とも縁があり、武田晴信が元服の折に着けたといわれる鎧や、晴信、義信親子が奉納したと伝わる三十六歌仙図などが伝わっています。木造大物主神立像は、国の重要文化財に指定されています。



② 熊野神社

クマノジンジャ



国衙推定地の北東に位置します。本殿は明治27年9月に、拝殿は明治13年9月に造営したものです。社内に相撲の辻があり、野田(後屋敷)、布施(小井川)と共に甲斐国三免許の辻と呼ばれてます。

③ 西宮神社

ニシミヤジンジャ

御坂町国衙字宮本にあり、旧社各は村社、蛭子命を祀ります。国衙推定地南西に位置し、国衙との関連も指摘されています。



④ 国立神社

クニタチジンジャ



国衙推定地の南、姥塚古墳の西側に位置します。井ノ上、金川原下組旧両村の土神で、国造塩海宿禰を祀ります。「国志」に国常立尊を祭るとあります。

⑤ 迎富士浅間神社

ムカエフジセン
ゲンジンジャ

笛吹市御坂町金川原の鎌倉街道沿いに位置し、旧村社の社格を持ちます。祭神は木花開耶姫命で、武田信玄が富士山への参詣途中に休息していた時、富士の牛王のお札が舞い降りてきたことから、この地に迎富士浅間神社を勧進したと伝わっています。付近には多くの古墳があり、この神社の建つ塚も本来は古墳であったと考えられています。



⑥ 往生山九品寺

オウジョウサン
クホンジ



国衙の裏鬼門にあたり、官人達の信仰を集めたともいわれています。本尊の木造阿弥陀如来立像は、高さ1mのヒノキの寄木造で、市の文化財に指定されています。衣の彫り方などから、鎌倉時代の作と伝えられています。九品寺末寺の福泉寺付近は、広島県の浅野家絵図に記された福泉寺城があった場所といわれています。

⑦ 慈眼山南照院

ジゲンサン
ナンショウイン

姥塚古墳の前に造られた曹洞宗の寺院で、「甲斐国志」に「寺境二石窟アリ 園通窟大姥塚ト称ス 洞口方九尺深拾貳間 正観音ノ木像ヲ安ス」と記されています。この聖観音は、藤原中期のものと伝わっています。



⑧ 金剛山正法寺

コンゴウサン
ショウボウジ



国衙推定地の北に位置する金剛山正法寺は、かつて、成田山金剛寺と呼ばれ、国衙の役人たちの信仰をあつめていました。寺には、平安時代末から鎌倉時代初期の作と伝わる不動明王立像があります。像は、高さ72.7cm、ヒノキの一本造で、市の文化財に指定されています。

⑨ 道標

ミチシルベ

鎌倉街道沿いには、いくつかの道標を見ることができます。笛吹高校北側には、甲斐の二之宮である美和神社と上黒駒方面との分岐を表す道標があります。また、中川と成田の境には、一宮町の古刹、中山山広蔵院との分岐を示す道標が3基見られます。御坂町下黒駒にも、甲府市の善光寺方面と美和神社方面との分岐を示す道標が見られます。道標や石造物を追いかけてながら街道沿いを散策してみたいかでしょうか。



⑩ 成田せぎ、夏目せぎ

ナリタセギ
ナツメセギ



長田古墳群、四ツ塚古墳群が広がる金川流域は、古くから洪水の被害に苦しめられてきました。一方で、金川から離れた姥塚周辺や国衙周辺地域は、水の確保に苦労してきた地域でした。江戸時代には、水の安定供給を目的として金川の水を成田せぎ、夏目せぎなどの水路として引き込みました。これらの水を巡っての水争いの記録が古文書に残っています。

⑪ 道祖神

ドウソジン

道祖神は、悪霊や災厄が村に入らぬよう村境などに祀られていることが多く、男根を模した石棒や、丸石、双体など様々なタイプがあります。鎌倉街道沿いにもいくつかの道祖神が見られます。ほとんどは丸石道祖神ですが、なかには桃のような形をしたものもあります。



⑫ 水害の碑

スイガイノヒ



笛吹川水系は、明治以降も度重なる水害に見舞われ、なかでも明治31年と40年の水害は流域に甚大な被害をもたらしました。笛吹市御坂町成田の鎌倉街道沿いには明治31年の水害被害を記録した碑が建っています。この水害で100戸以上の人家が流失しました。

⑬ 御坂路

ミサカジ

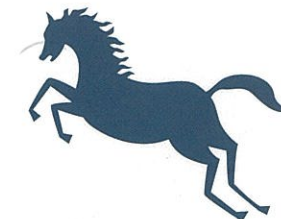
古来、甲府盆地と駿河を結ぶ道は4本ありました。西から富士川沿いを下る河内路、甲府市右左口を通る中道往還、笛吹市八代町から芦川町を抜け富士河口湖町を通る若彦路です。そして最も東寄りのコースが笛吹市御坂町の御坂峠を越え河口湖畔、山中湖左岸から籠坂峠を越えて御殿場市に至る御坂路(鎌倉街道)です。御坂路は、甲斐国府と都を結ぶ道として、古来より人々の往来がありました。平安時代の諸国の様子を記した『延喜式』の巻二十八、兵部省諸国駅伝馬条には「甲斐国駅馬。水市・河口・加吉各五疋。」と3つの駅名が記されています。加吉は加古の誤りで籠坂峠付近を指すといわれています。河口は河口湖畔付近を指すとされ、水市は御坂町上黒駒付近か一宮町市之蔵付近を指すと考えられています。鎌倉時代に入ると甲斐と幕府を結ぶ官道として、室町時代にも、甲斐と鎌倉府を結ぶ主要街道として大いに賑わいました。この道は、官僚や武士の他にも、日蓮宗を興した日蓮や時宗を広げた他阿上人真教なども往来しています。街道沿いの笛吹市御坂町上黒駒には他阿上人真教が開いた時宗の古刹、称願寺が残り、国重要文化財「他阿真教坐像」を見ることができます。また、「甲斐の御坂」を詠んだ歌も多く、なかでも『承徳本古謡集』に記された「甲斐人の 嫁にはならじ ことかし 甲斐の御坂を 夜や越ゆらむ」の歌は、夜中に険しい御坂越えをしなければならぬ夫の身を案じる妻の心境を切々と歌ったものとして知られています。



⑭ 甲斐の黒駒

カイノクロコマ

「ぬばたまの甲斐の黒駒鞍着せば命死なまし甲斐の黒駒」は『日本書紀』雄略天皇13年9月の条の記述です。天皇がささいな罪で木工猪名部真根(いなべのまね)を殺そうとして刑所へ送ったところ、真根の同僚が彼を惜しんでこの歌をよんだので、天皇が後悔して赦使を甲斐の黒駒に乗せて刑所へ走らせ、危うく真根の命を助けたというものです。『日本書紀』は720年の完成ですが、この事件は5世紀後半の出来事と考えられています。さらに『日本書紀』天武天皇元年(672年)7月4日の条には、壬申の乱で、「甲斐の勇者」が大海人皇子方で活躍する様が記述されています。騎馬兵であることが推測されますので「甲斐の黒駒」との関連が指摘されています。これらの記述からも分かるように、甲斐は名馬の産地として知られていました。今回紹介する姥塚も聖徳太子の愛馬の墓であるという伝説があり、「御馬塚」とも呼ばれています。また、御坂町には、黒駒、馬鞭、御馬休所、馬込などの地名が残ります。



1 二之宮遺跡・姥塚遺跡 ニノミヤイセキ・ウバヅカイセキ

中央自動車道の建設工事に先立って、発掘調査された古墳時代から平安時代を中心とした集落遺跡。550軒もの住居跡が確認されました。住居跡からは古墳に埋葬されるような馬具、金環、管玉なども出土しています。また、周溝墓や古墳なども確認され、発掘調査が行われました。



2 姥塚古墳 ウバヅカコフン

直径約50m、現存石室長17mを測る横穴式石室を持つ円墳で、6世紀後半に造られました。石室は、大きな川原石を積み上げて造られていて、さらに巨大な天井石が載せられています。古墳の周囲は墓地になっていますが、周溝の痕跡を見ることができます。



3 国衙跡 コクガアト

甲斐の国府は、春日居町国府から御坂町国衙に移転したと考えられています。御坂町には、国衙や方八町といった国府の存在を匂わせる地名が残っていますが、発掘調査では、痕跡を見出すには至っていません。今後の調査に期待がかかるエリアです。



4 四ツ塚古墳群 ヨツツカコフン

中央自動車道一宮御坂インター付近には、横穴式石室を持つ円墳が数十基確認されています。御坂町から一宮町を流れる金川沿いにはこのような群集墳を見ることができます。山梨県森林公園「金川の森」では発掘された古墳や未発掘の古墳を見ることができます。



14 半行寺遺跡 ハンギョウジイセキ

国衙推定地の北側にあたる御坂町成田周辺に広がる古墳時代から平安時代を中心とした遺跡です。布目瓦が出土することから、古代寺院があったと考えられています。また、漆が入った杯や墨書土器も多く出土しています。



13 境沢遺跡 サカイザワイセキ

御坂町成田に位置する集落遺跡。平成10年の発掘調査で、弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡6軒、掘立柱建物跡2棟が調査されました。住居跡のうち、2軒の柱は板柱で、手斧による削りの跡が残っていました。また、壁から床にかけて敷かれた編み物が炭化した状態で出土しています。



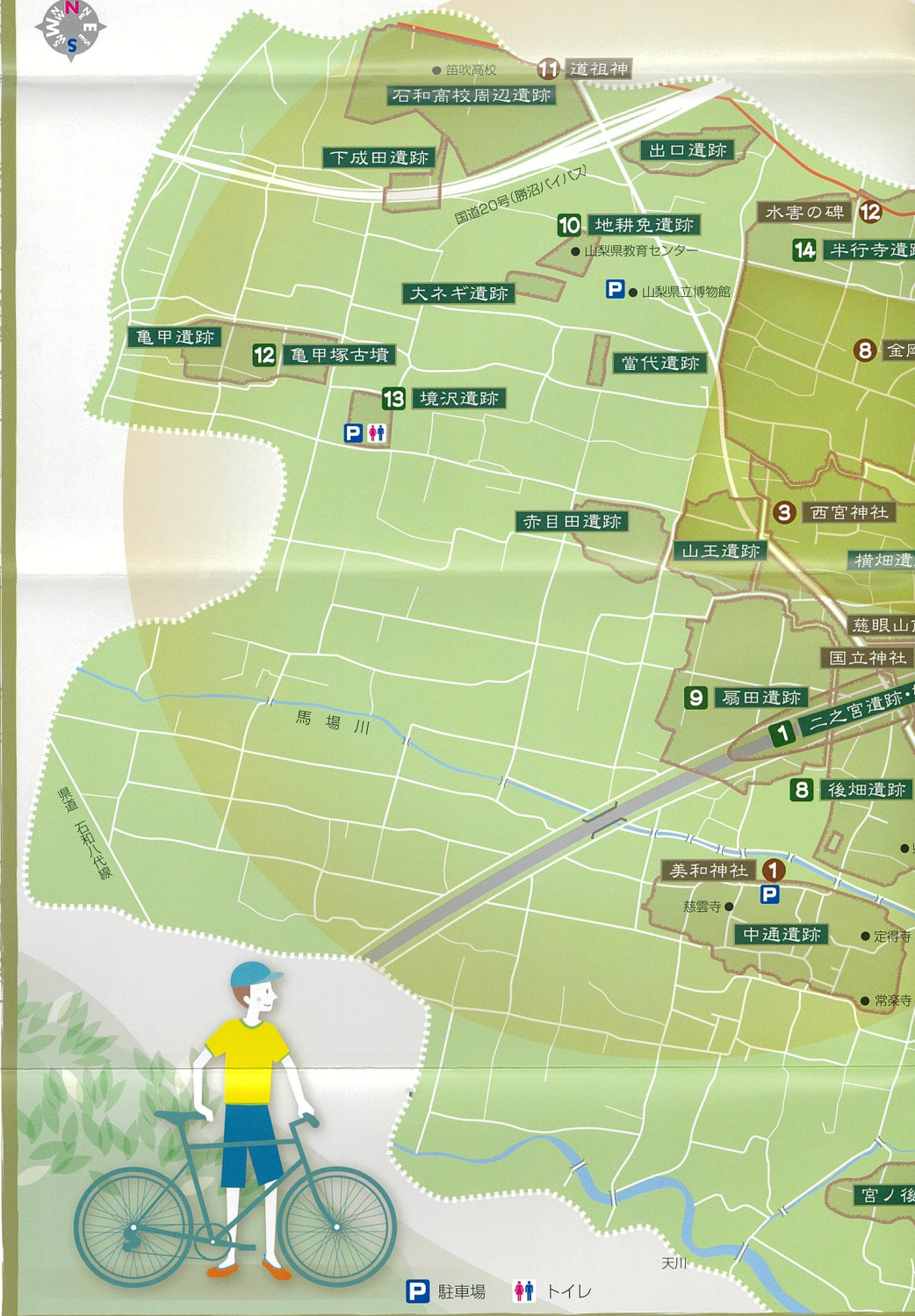
12 亀甲塚古墳 カメノコウヅカコフン

5世紀前半に造られた直径25mの古墳。削平により円墳に見えますが、帆立貝式古墳の可能性が指摘されています。昭和23年の発掘調査で竪穴式石室が確認され、鏡や刀剣、管玉などが出土しました。



11 錦生古墳群 キンセイコフン

姥塚周辺では、直径10mから15m程の古墳を見ることができます。多くは削平され、墳丘の一部が残っていませんが、その全てが横穴式の円墳であると思われます。



10 地耕免遺跡 チコウメンイセキ

御坂町成田の県立教育センター建設に先がけて調査された古代から中世にかけての遺跡です。扇状地先端で地下水位が高いため、多くの木製品が出土しました。

9 扇田遺跡 オオギダイセキ

御坂町二之宮から井之上にかけて広がる古墳時代から平安時代を中心とした集落遺跡。国衙に近く、隣接する二之宮、姥塚遺跡と併せて大規模な集落が営まれていた地域です。

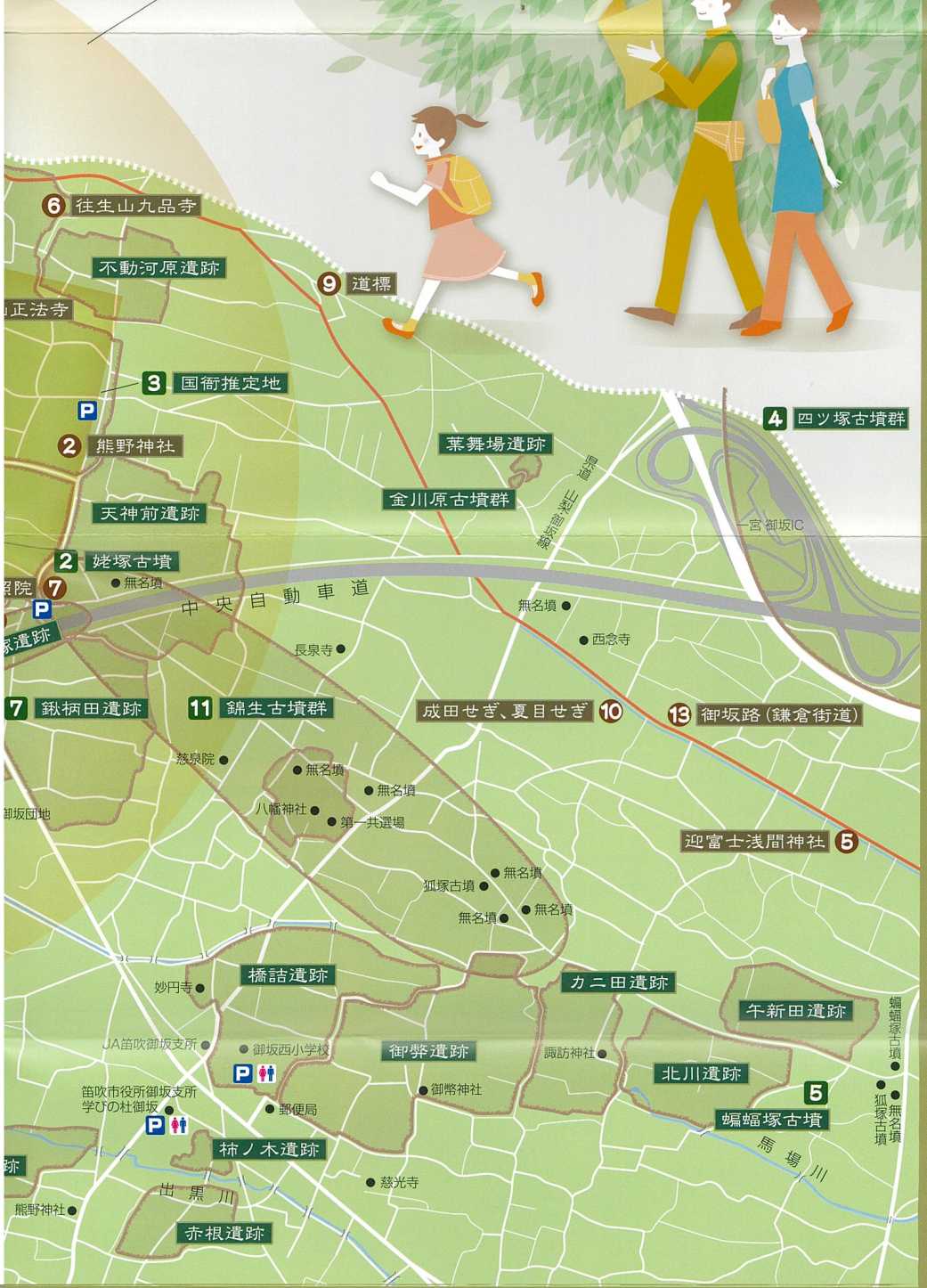
8 後畑遺跡 ウシロバタケイセキ

姥塚古墳の南西、甲斐の二之宮である美和神社周辺に広がる古墳時代から平安時代の集落遺跡です。美和神社の北を流れる馬場川以北では住居跡の密度が高く、集落がこの辺りまで広がっていることが確認されました。

7 鉄柄田遺跡 カガラダイセキ

姥塚古墳の南側に位置する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。試掘調査により、その集落の広がりがわかってきました。

御坂埋没条里



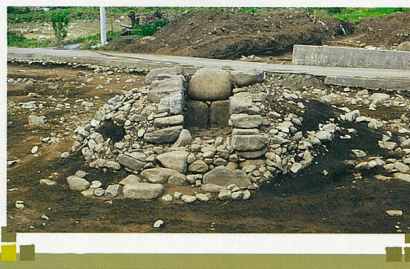
5 蝙蝠塚古墳 コウモリヅカコフン

桂野台地から流れる馬場川中流域にも、横穴式石室を持つ円墳が数十基確認されています。蝙蝠塚は、石室や墳丘が残り、その規模を確認することができます。古墳の墳丘は、耕作により一部削平されていますが、版築の様子も確認できます。



6 長田古墳群 チョウタコフン

金川中流域左岸に広がる長田古墳群では36基の古墳が発掘調査されました。全てが横穴式石室を持つ円墳です。20号墳の石室だけがT字形石室というタイプでした。20号墳の被葬者は特殊な技術を持った渡来人であったとも考えられています。



遺跡からの出土品を見る！ 笛吹市春日居郷土館 フエフキシカスガイキョウドカン

笛吹市の遺跡から出土した土器・石器は、春日居郷土館で展示しています。市内の古墳から出土した装身具や寺本廃寺、甲斐国分寺跡、国分尼寺跡などの古代寺院跡出土の瓦、縄文時代から平安時代までの集落遺跡の出土品を展示しています。

- 休館日 毎週月曜日・祝祭日・年末年始
- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時半まで）
- 入館料 一般・大学生200円（小・中・高校生100円）
- ～企画展開催期間中は、出土品展示の規模を縮小します。～
- お問合せ 笛吹市春日居郷土館 電話0553-26-5100

